

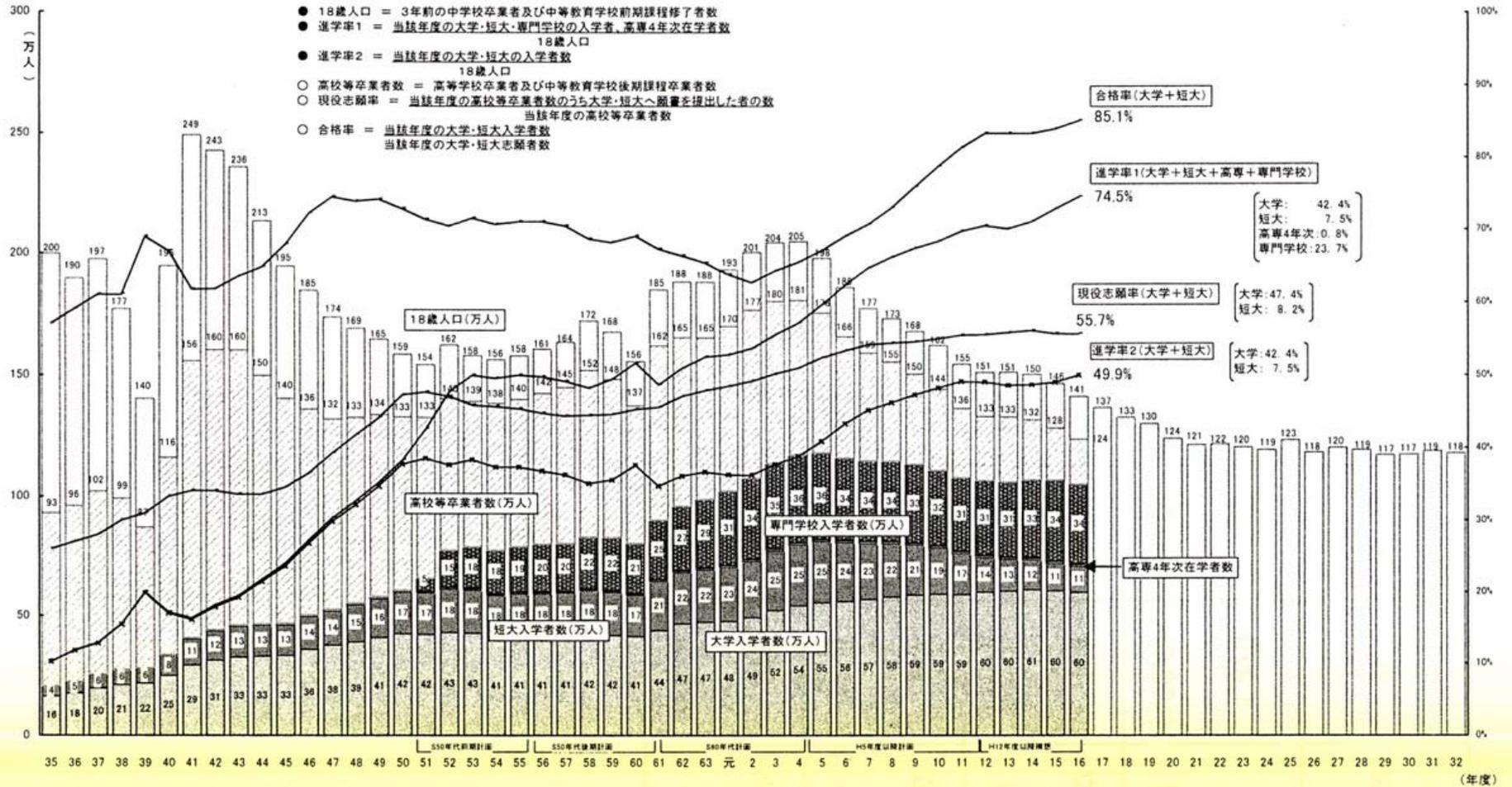
大学の取組み

2007年度からの改組

その他のニュース

2. 高等教育の全体像

(1) 18歳人口及び高等教育機関への入学者数・進学率等の推移



(文部科学省「学校基本調査」、「学校基本調査速報」(平成16年度)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成14年1月推計)より文部科学省作成)

工学部

機械学群

機械工学科

自動車工学コース

機械解析工学コース

機械材料工学コース

機械システム工学科

機械システム設計工学コース

計測制御工学コース

ロボット宇宙工学コース

電気・エネルギー学群

電気電子工学科

先端デバイス工学コース

システムエレクトロニクス工学コース

電力社会システム工学コース

環境エネルギー工学科

原子力・放射線科学コース

水素エネルギーシステム工学コース

エネルギー材料化学コース

エネルギー変換工学コース

建築・都市学群

建築学科

建築工学コース

建築計画・設計コース

都市デザインコース

都市環境コース

都市防災コース

都市工学科

生体医工学科 **新設**

治療メカトロニクスコース

診断エレクトロニクスコース

原子力安全工学科
(仮称)

平成20年開設予定

リテラシー学群

自然科学系列

数理科学コース

情報処理応用コース

物理科学コース

分子・生命・地球科学コース

教職コース

外国語コース

スポーツ科学コース

人文社会科学コース

人文社会科学系列

情報学群

情報科学科

計算機工学コース

メディア工学コース

情報数理コース

情報ネットワーク工学科

ネットワークシステムコース

ネットワークデバイスコース

応用情報工学科

企業システムコース

知識マイニングコース

ヒューマンメディアデザインコース

ITスペシャリストコース

将来学科設置を目指す

環境情報学部

環境情報学科

都市システムコース
Urban &
Built Environmental
Systems Course

エコシステムコース
Ecosystems
Course

政策コース
Environmental
Policy
Course

経営コース
Environmental
Management
Course

情報メディア学科

システムデザインコース
Information
System Design
Course

情報デザインコース
Information Design
Course

**メディアコミュニケーション
コース**
Media and
Communications
Course



等々力キャンパス

総合研究所

(東横学園文化校舎増改築)

東横学園女子短期大学

ライフデザイン学科

保育学科

内容を精査し、4年生学部として
武蔵工業大学に統合予定

王禅寺キャンパス

原子力研究所(原子炉廃炉)

(原子力安全工学科として活用)



小さいながらキラリと光る大学をめざして

様々な取り組み

MI-TECH

美しい時代へ——東急グループ

美しい街で学ぶ。
美しい地球を守る。

次世代のテクノロジー&エコロジー

世田谷キャンパス

工学部・大学院

TEL.03-3703-3111(代)

<http://www.musashi-tech.ac.jp>

●東急大井町線「高山台駅」徒歩12分

武蔵工業大学

横浜キャンパス

環境情報学部・大学院

TEL.045-910-2500(代)

<http://www.yc.musashi-tech.ac.jp>

●横浜市営地下鉄「中川(武蔵工大 横浜キャンパス前)駅」徒歩8分

夢に挑み、社会を変えた…… 武蔵工業大学で学んだ10人の男たち。

「武蔵工大」卒業生が築き上げた「技術立国・日本」

昨年10月、創立75周年を迎えた武蔵工業大学。その輝かしい歴史の中で、戦後日本を支えた重要な技術開発に挑むた優秀なエンジニアを数多く輩出した。技術立国・日本を築き上げる大きな原動力となりました。困難な技術開発に挑み社会の発展に大きく貢献した10名の卒業生をここに紹介します。

こうした卒業生の活躍が月に加え、世田谷環境工学部と横浜両キャンパスの優れた立地環境も本学の大きな魅力です。東京23区内にある私立理工系キャンパスで最大規模の面積を有する世田谷キャンパス(工学部)では、現在もキャンパス再開発計画が進行中。美しい横浜キャンパス環境情報学部では環境問題と情報処理についての総合的な教育・研究がなされています。時代を担う人材の育成に向けた積極的な姿勢が、ますます本学の社会的評価を高め、その結果、就職に強い武蔵工大という定評を確かなものにしていきます。

「日本の国際通信が欧米に勝利した瞬間に立ち会いました」

1989年、日本の技術で最初の太平洋横断「光海底ケーブル」を実現。その後、世界中の海域の光海底ケーブル建設事業も手がけ、今日のグローバル情報社会のベースを築く、NHKプロジェクト「太平洋1万キロ 決死の海底ケーブル」で紹介された。



新納 康彦
元 KDD(株)
KDD海底ケーブルシステム部
●電気通信工学部・昭和49年卒



中園 正樹
(株) 松田平田設計
●建築学科・昭和49年卒



岩田 充一
元 日本鉄道建設公団
北州四国連絡橋公団
●土木工学科・昭和41年卒



今年1月12日、ここに登場された技術者の方々が東京・渋谷エクセルホテル東急に集結。本年・中村英夫学長(写真前列中央)を囲んで、それぞれの技術にける思いと母校への期待を語り合いました。

「建築の面白さは、「コラポレーション」にあり！」

FIFAワールドカップ決勝戦会場だった「横浜国際総合競技場」を設計し、その建設事業の推進と設計監理に関する業績で建築業協会賞特別賞、日本建築学会賞業績部門を受賞。また、昨年12月開業の東京国際空港羽田「第2旅客ターミナルビル」を設計する。

「これだけの仕事をやりとげて、我が人生に悔いなし！」

日本鉄道建設公団を経て、本州四国連絡橋公団へ。「瀬戸大橋」に鉄道を通すため、数々の困難な技術的課題の克服にあたり、最初から最後まで担当。その苦闘はNHK「プロジェクトX」男たちの不屈ドラマ「瀬戸大橋」世紀の難工事に「挑む」で紹介された。

「自分の経験を生かして母校の後進のために尽くしたい」

日産自動車に入社して、長らくパワートレイン、シャーシ等の設計に携わった後、商品本部へ。商品企画のリーダーとして大ヒットした「セフィーロ」や「キミタ」の商品企画を担当。そのヒット商品づくりの考え方や手法は同社の模範となる。

「ベンチャー企業を立ち上げ、今も新しい研究開発に挑戦」

日本無線探査研究所において「高速超音波診断装置」の開発に従事。ICを用いた電子走査法を考案し、現在普及している超音波診断装置の基本を作る。その開発経緯はNHK「プロジェクトX」朝意は無限な1「超音波診断装置エコー」で紹介された。

「トンネル技術への関心は、現在も衰えていません」

日本鉄道建設公団において、本州と北海道を結ぶ「青函トンネル」の難工事に挑む。水の克服が重要課題となり、数多くの難工事を乗り越える。工事の様子は、NHK「プロジェクトX」青函トンネル「友の死を越えて」24年の大工事」で紹介された。

「私を支えているのは、都市生活を守る誇りと使命感」

関東平野の外周部に沿って建設されている世界最高電圧の「送電線」(100万V設計、50万V運用)の設計を担当し、数々の難題をクリア。その過酷な条件での建設作業はNHK「プロジェクトX」100万ボルトの送電線 決死の空中戦に挑む」で紹介された。



藤井 篤
元 日産自動車(株)
第 1 部 サナワラインフォームテクニクス
●機械工学科・昭和42年卒



入江 喬介
元 日本無線探査研究所
(現 アロカ(株))
第 1 部 マカシックス(株)
●電気通信工学部・昭和43年卒



佐藤 正人
鉄道・運輸機構
●土木工学科・昭和48年卒



渡部 伸
東京電力(株)
●電気工学科・昭和60年卒

「航空機へのライバル心が「500系」を生み出した」

JR西日本において最高速度300km/hを出す「新幹線500系車両」の開発リーダーを務め、その功績によって科学技術庁長官賞を受賞。また、福岡の6両編成の地下鉄に、日本で初めて自動運転と列車運行システムを組み込み、ワンマン運転化を実現する。

「頑張っている技術者の姿を多くの人に知ってほしい」

マツダ(株)で、30余年にわたる新型車開発に従事。初代「ユノスロードスター」の開発を手がけ、その後北米向け小型トラックの総責任者に、またNHK「プロジェクトX」「クルマを制御せよ」ロータリーエンジン 奇跡の逆転劇」の企画等技術広報も手がける。

「学生時代の水素自動車に賭けた情熱が、私の原点です」

学生時代、世界的な注目を集めた水素自動車武蔵1号・2号の開発に携わる。トヨタでは、数々の「新エンジン」開発を担当。多くの技術開発賞を支える。リースエンジンの開発でも、インディアン(米国)で初優勝。現在、トヨタ・ハイブリッド開発の陣頭指揮を取る。

【掲載誌】

- ① サンデー毎日 2005年 2月20日号
- ② サンデー毎日 2005年 11月27日号
- ③ サンデー毎日 2006年 1月22日号
- ④ サンデー毎日 2006年 6月11日号

武蔵工業大学

インターネットホームページアドレス
<http://www.musashi-tech.ac.jp> (携帯も可)
問い合わせ先 東京 (03)3703-3111 企画広報室



美しい時代へ
東急グループ



森下 逸夫
元 武蔵工業大学(株)
第 1 部 シュアール・ムサシテクノス
●電気工学科・昭和43年卒



久保 信三
元 マツダ(株)
第 1 部 東日本トモビル(株)
●機械工学科・昭和44年卒



嵯峨 宏英
トヨタ自動車(株)
●機械工学科・昭和50年卒

武蔵工業大学

世田谷キャンパス(工学部) 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1TEL03-3703-3111F0
 横浜キャンパス(環境情報学部) 〒224-0015 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1TEL045-910-2500F0
 等々力キャンパス(総合研究所) / 世田谷等々力 玉王寺キャンパス(原子力研究所) / 川崎市麻生区玉王寺
 ホームページアドレス <http://www.musashi-tech.ac.jp> (携帯も可)
 問い合わせ先 東京(03)3703-3111 企画広報室

美しい時代へ
東急グループ



矢部 浩二
平成15年 工学研究科
電気工学専攻修士課程修了
三菱電機(株)
住環境研究開発センター

「高効率・低コスト、低騒音モーターの開発」
「厳しく省エネ化が求められるエアコン用のモーター開発を主に担当しています。やはりモーターの研究に取り組んでいた大学時代(電気電子工学)では、国内外での学会発表、また他分野の研究者との交流など、これからの技術者に欠かせない広い視野を培うことができました」



熊谷 正芳
平成16年 工学研究科
機械システム工学専攻修士課程修了
浜松ホトニクス(株)
電子営業部

「半導体加工の
新技術に挑戦」
「半導体チップは、シリコンなどのウェーハから小片を切り出すことによって製造されます。私は、研究室で学んだ材料や強度解析の知識を生かしながら、この小片を光技術で切り出す次世代のダイシング技術の開発を手がけています」



大津 全史
平成15年 工学研究科
電気工学専攻修士課程修了
セコム(株)
IS研究所

「画像センサを使った
セキュリティサービスの研究」
「画像工学ってなんだ? という疑問から武蔵工大の電子情報工学科を選びました。念願かなって意中の画像工学研究室に所属し、自分がやりたい研究を自由にやらせていただきました。現在の仕事もそうした私自身の興味の延長線上にあります」



天利 悟
平成15年 工学研究科
電気工学専攻修士課程修了
松下電器産業(株)
ネットワーク開発センター

「人体にやさしい
携帯アンテナの開発」
「大学入学前から、電磁波が人体に与える影響に関心があり、武蔵工大の電子通信工学科に入学。学部大取り組時代でした。その研究に大学組織で進みました。そして今、人体にやさしい携帯端末の開発現場にいます」



野村 栄治
平成17年 工学研究科
経営工学専攻修士課程修了
大成建設(株)札幌支店/
海外トンネル工事作業所

「雪国の人たちのための
トンネル掘削」
「冬期に雪害のため通行止めになる道路区間で現在の掘削工事の現場で現在、働いています。身につけた技術で社会に貢献したい...というのが学生時代からの夢で、将来は、好きな英語を生かして海外で途上国支援の仕事にも携わってみたいですね」



原 麻実子
平成11年 工学研究科
経営工学専攻修士課程修了
東日本旅客鉄道(株)
東京工事事務所

「東京駅八重洲開発
プロジェクトに参加」
「東京駅八重洲開発のプロジェクトに携わり、駅前に建設するツインタワーの南棟を担当しています。社会に出て感じるのは、武蔵工大の教育がとても実践的だったという点です。論文作成など試行錯誤を重ねながら結果を導いた経験は、仕事をやる上で役立っています」



石倉 ひろみ
平成12年 工学部システム工学科
システム工学専攻修士課程修了
シナケン(株)
経営企画部広報内チーム

「エネルギー新時代に向けた
広報活動」
「自社ホームページ制作、機関投資家向け広報(IR)、販売店向け情報誌の編集などに関わっています。文系出身者の多い職場ですが、エネルギーに関する技術情報への理解や、それを数字を使って理論的に説明する際には理系出身の強みを感じています」



村上 拓真
平成11年 工学研究科
経営工学専攻修士課程修了
(株)アイネス
公共システム本部

「地方自治体の
システム設計」
「F1などレース用エンジンの先行開発設計に携わっていた私は、学部大学院を通して内燃機関研究室でエンジンの研究に取り組みましたが、厳しい研究室でしたが、社会人として欠かれない自分の頭で考え、問題を解決する力を鍛えることができたと思います」

若い力が、

— 武蔵工大、若手卒業生 —

「就職に強い武蔵工大(MI-TECH)」—75年を超える歴史の中で輩出してきた多くの優秀な卒業生たちの活躍に支えられ、武蔵工業大学はそんな社会的定評を獲得してきました。そして21世紀、「伝統」の工学部と「文理融合型」の環境情報学部の若手卒業生たちは、さらに幅広い分野でそれぞれの才能を発揮し、新しい社会をつくっています。

社会を変える



津田 賀央
平成13年 環境情報学部
環境情報学科卒業
(株)東急エージェンシー
コミュニティメディア本部

「インターネット時代の
メディアプランナー」
「環境情報学部1期生の私たちが多く、仲間と刺激あいなながら新しいモノを察知する嗅覚を磨いていました。新しいコミュニケーションのあり方を提案するプランナーとして、今、そんな学生時代の経験をフルに生かして仕事しています」



今西 由美
平成13年 環境情報学部
環境情報学科卒業
(株)建設技術研究所
国土文化研究所

「公共インフラなどの
コンサルティング」
「建設コンサルタントとして、公共構造物の調査や計画をはじめとする幅広い業務に従事。在学中に所属していた研究室の中村英夫教授(現学長)にプレゼンで鍛えられ、外部機関の研究者と共に活動した経験が、今、大きな財産となっていると感じています」



杉山 裕基
平成16年 環境情報学部
環境情報学科卒業
キャンノン(株)
プラットフォーム開発本部

「新製品づくりのための
ソフトウェア開発」
「デジタルネットワークカメラのシミュレートワーク(コンピュータ上で動く試作機)の開発を担当しています。環境情報学部は、学生が将来やりたいことを発見し、その夢を実現するにあたってとことんサポートしてくれる学びの場でした。とても感謝しています」



足立 英里
平成16年 環境情報学部
環境情報学科卒業
JSAT(株)
広報 IR部

「人と人をつなげる
広報ウーマン」
「日本初の民間衛星通信事業者で、企業広報とIR投資家対応の業務を担当しています。在学中、M210C工機浜浜宗運営委員会(YFA)委員長として、人と人をつなげる活動を経験したことが、通信業界、そして広報という職場で働く私の原点かもしれません」



関 貴光
平成12年 工学研究科
機械工学専攻修士課程修了
トヨタ自動車(株)
モータースポーツ部

「レース用エンジンを
開発」
「F1などレース用エンジンの先行開発設計に携わっていた私は、学部大学院を通して内燃機関研究室でエンジンの研究に取り組みましたが、厳しい研究室でしたが、社会人として欠かれない自分の頭で考え、問題を解決する力を鍛えることができたと思います」



吉沢 麻衣子
平成16年 環境情報学部
環境情報学科卒業
日本ミクニヤ(株)
情報事業部準備室

「環境・生態系を守る
フラクショナルジャーナリスト」
「環境コンサルタントとして沿岸域(干潟)の生物・生態系調査のほか、学生時代に勉強した生態系詳細にも取り組んでいます。研究のための研究ではなく、社会から必要とされる研究をします。研究室で田中章助教授から言われた言葉が、今も私のモットーです」



取締役社長
鈴木 浩二氏
昭和42年工学部電子工学科卒業

私の在学中、まだ設立されたばかりの経営工学科には学生と教員が一体となって新しい学問を創り上げていく情熱がありました。現在の私の経営理念は「スピード」と「情報の共有化」です。変化の激しい時代に対応できるものづくりの革新をめざして、そして社員一人ひとりが100%の力を発揮できる企業風土をめざして……今も学生時代に培った情熱を持って、挑戦を続けています。

半導体から原子力発電まで、あらゆる「漏れを止める」先進技術



取締役社長
岩波 清久氏
昭和40年工学部電子工学科卒業

創業者である祖父の機械いじりを見ながら育ちました。高校卒業後、東京で「社会勉強」をするつもりで、故郷神戸を離れて武蔵工大に進学。厳しさの中にもユーモアを感じさせる先生方には、はじめての先生方にも技術者を集めた開発会議では、自ら新しいアイデアを披露することもあればあります。学生時代から憧れだった本田宗一郎氏と同じく、私も根づから技術好きなんです。

好奇心と雑学では誰にも負けないバンダイ初の「サラリーマン」社長



代表取締役社長
上野 和典氏
昭和42年工学部電子工学科卒業

バンダイでは、若い人にとんだチャンスを与えます。また、一度失敗しても再チャレンジすることがあります。夢とやる気がある人には、これほど楽しい職場はありません。しかし自分から積極的に取り組む姿勢がないと、たちまち周囲に置いていかれてしま……まるでジェットコースターみたいな会社です。自分の夢に対してハングリな気持ちを抱いている後輩に、ぜひ、わが社に来ていただきたいです。

日本を代表する一流ホテルを動かす理工系出身の総支配人



代表取締役社長
小川 矩良氏
昭和42年工学部電子工学科卒業

大学卒業後、メーカーに就職したものの、3年で就任した。25歳で理工系出身者がほとんどいないホテルビジネスの世界に飛び込みました。3年遅れの、そしてゼロからのスタート。今度こそ……という気持ちで10年間がむしやらに働きまわりました。そんな私の心の支えとなったのは武蔵工大での充実した青春の4年間と、そこで身につけた体系的な思考。それは経営者となった今でも私の大きな財産です。

武蔵工業大学

世田谷キャンパス(工学部) 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL03-3703-3111内
横浜キャンパス(環境情報学部) 〒224-0015 神奈川県横浜市都筑区牛久保5-3-1 TEL045-910-2500内
専攻力キャンパス(総合研究所) 世田谷区専攻力 王禅寺キャンパス(原子力研究所) 川崎市麻生区王禅寺
ホームページアドレス <http://www.musashi-tech.ac.jp> (携帯も可)
問い合わせ先 東京(03)3703-3111 企画広報室

美しい時代へ
東急グループ

日本建築学会賞など数々の受賞歴に輝く「横浜赤レンガ倉庫」再生の仕掛人



代表取締役社長
新居 千秋氏
昭和40年工学部建築設計学科卒業

現在私は、農業、漁業、次世代や他の生命に対する責任など……環境と社会全体をコントロールしていく生活のインベションとしての建築を志向しています。これからの建築家に求められるのは、トータルに世界を捉える、「日常の中」から独自のコンセプトを発見できる能力でしょう。武蔵工大の建築家スピリットを受け継ぎながら、時代の風を捉えることができる有能な後輩たちが多く育ってほしいと思います。

ケータイをもっと便利に、楽しく……日本IBM出身のベンチャー経営者



代表取締役社長兼CEO
加来 徹也氏
昭和43年工学部電子工学科卒業

日本IBMでのPC開発、出向先のセガでドリムキヤストの立ち上げ、そして起業……波瀾万丈の技術者人生を送ってきました。技術者に不可欠なのは、自分に対する自信です。在学中、厳しくも面白い良先輩方のおかげで卒業時から技術者としての自負心がありました。そこで一言、後輩のみんな!武蔵工大で4年間きっちり修行を積み、世の中でのトップをめざせ!

あらゆる不安のない社会をめざす「社会システム産業」のトップランナー



代表取締役社長
原口 兼正氏
昭和42年工学部電子工学科卒業

大学在学中、授業で理解できない数式をまるで魔法のようにスラスラと理解する同級生を見て、自分は専門技術者として生きていくべき人間ではないと痛感。メーカー以外の就職先を探して、目に留まったのが日本警備保障(現セコム)。まだ株式市場前でしたが、この会社はもともと大きくなるという予感めいたものがありました。技術者の道はあきらめた私ですが、武蔵工大で技術を学んだ経験は、現在も私の血肉となっています。

様々な工業製品の「金型」を作る放電加工機の世界的ブランドを築く



代表取締役社長
鈴木 正昭氏
昭和42年工学部電子工学科卒業

30年前の創立当初、わが社は今で言うベンチャーでした。そんななかで、の小さな会社を支えてくれたのが、武蔵工大の後輩たち。彼らは今や各部門、系列企業のリーダーとして采配をふるっています。ものづくり技術者を志向する若い人たちに大切なものは、シミュレーションで満足せず、できるだけ多く「現物」に触れること。そういう経験の積み重ねから、ものづくりの基本と精神を学べるのです。

日本の高度成長期を支えた「都市土木」のスペシャリスト



代表取締役社長
市川 正美氏
昭和42年工学部土木工学科卒業

私は部下の失敗を恐れませんが、むしろチャレンジ精神をなくすことを恐れます。時には「市川さんは部下に優しくする」と怒られることもありま。確かに一生懸命仕事に取り組んでいる部下には優しいかもしれませんが、中途半端な仕事ぶりは決して許しません。若者には、自ら限界を設けず、あらゆることに挑戦してほしい。その活力が、企業の未来を拓く原動力になるのですから。

企業経営の最前線で活躍する
武蔵工大卒業生が語る

日本経済を牽引する多くの著名企業でリーダーとして活躍している武蔵工業大学の卒業生。いま次代を創る後輩たちに向けて熱いメッセージを贈る。

次世代の テクノロジー& エコロジーを目指す キラリと光る教授たち



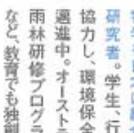
環境情報学部
環境情報学科
宿谷昌則 教授

建築環境におけるエクスセル
ギー研究の世界的リーダー。
建築の熱環境や光環境と、
身近な自然との関係につい
ての明晰な解説には定評あ
り。住環境教育面でも積極
的に研究を展開し、快適で
自然な住まいの環境づくりを、
専門家や市民に啓蒙している。



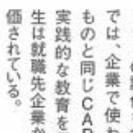
知識工学部
リテラシー学部・体育部門
渡辺一郎 教授

本学ラグビー部を工学系大
学No.1の強いチームに作り
イギリスイタリアへ遠征し、
現地の大学と対戦。日本
オリンピック委員会委員等
を務め、第51回日本スポーツ
賞も受賞。わが国のラグビー
界、スポーツ界の強力な牽
引者でもある。



環境情報学部
環境情報学科
小堀洋美 教授

地球環境悪化に伴い絶滅寸
前の生物。その原因を探り、
問題点の解決を図る保全生
物学を日本に紹介した女性
研究者。学生、行政などと
協力し、環境保全と復元に
邁進中。オーストラリア熱帯
雨林研修プログラムの指導
など、教育でも独創的である。



知識工学部
情報科学科
宮内新 教授

携帯電話や自動車などに組
み込むコンピュータの心臓部
であるプロセスを開発設計、
LSIの試作も行う。講義
では、企業で使われている
ものと同じCADを用いて
実践的な教育を行い、卒業
生は就職先企業から高く評
価されている。



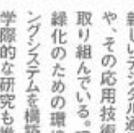
環境情報学部
情報メディア学科
家木俊温 教授

情報化に伴い、ますます身近
になってきたICカードの標
準化についての指導者のひと
り。現在はネットワーク上の本
人確認を行うカードの研究や
普及活動を行っている。安心
して情報技術を利用できるよ
う、情報セキュリティ対策につ
いての教育、社会活動も積極
的である。



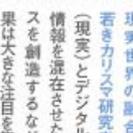
知識工学部
情報ネットワーク工学科
徳田正満 教授

高度情報化によってEMC
(電磁両立性)問題が深刻
化している。他の機器に電
磁的に悪影響を与えず、同
時に他の電磁雑音に影響さ
れない機器、EMCのある
横谷 徳田教授は今年10月
にEMC国際規格作成委員
会の国際議長に就任予定。



環境情報学部
情報メディア学科
諏訪敬祐 教授

日本屈指のワイヤレス通信
技術のエキスパートである同
教授は、ユビキタス社会での
新しいデジタル通信サービス
や、その応用技術の研究に
取り組んでいる。現在、沙灘
緑化のための環境モニタリ
ングシステムを構築するなど、
学際的な研究も推進中。



知識工学部
応用情報工学科
森博彦 教授

誰にでも使いやすく、生活を
豊かにするユビキタス情報
環境を探索し、仮想空間と
現実世界の融合を目指す
若き力強い研究者。ペパー
(現実とデジタル仮想)
情報を混在させたデータベ
ースを創造するなど、その成
果は大きな注目を集めている。

武蔵工業大学

ホームページアドレス
<http://www.musashi-tech.ac.jp> (検索可)
問い合わせ先 東京 (03) 3703-3111 企画広報室

- 世田谷キャンパス [工学部] 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-29-1 TEL.03-3703-3111 (H)
- 横浜キャンパス [環境情報学部] 〒224-0015 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1 TEL.045-910-2500 (H)
- 等々力キャンパス [総合研究所] / 世田谷区等々力 ■ 王塚寺キャンパス [原子力研究所] / 川崎市麻生区王塚寺

武蔵工業大学の最新構想 (2007年4月編纂予定)

- 工学部を「工学部」と「知識工学部」に再編成 ● 工学部内に「生体医工学部」を新設
- 詳しくは本学の受取カードブック「MI-TECH/マイテック2007」または本学のホームページをご覧ください。

美しい時代へ
東急グループ



総合研究所
所長
白木靖寛 教授

高度情報化社会を支える
半導体材料デバイス分野の
第一人者で、次世代半導体
といわれるシリコンゲルマ
ニウムの世界的権威。ナノテ
クを駆使して、半導体結晶
を原子レベルでコントロール
しながら、新しいデバイスの
開発を行っている。



工学部
電気電子工学科
丸泉琢也 教授

情報科学技術の核となる半
導体。その大きさは、原子
100個分ほどのさきわめて
微細なもの。その半導体内
部の電子の動きをシミュレ
ーションする世界最高水準の
システムを構築。半導体開
発に新たな道を意欲的に切
り拓く研究者である。



工学部
環境エネルギー工学科
高木靖雄 教授

水しか排出しない究極のエコ
ロジーカーを実現すべく、燃
料電池と水素内燃機燃焼の両
方の研究開発を進める世界
でも数少ない研究者。燃料電
池普及の各種委員会の委員
長や燃料電池自動車用作業
の国際規格を定めるISO国
際標準化機構のワーキング
グループ議長を務めている。



工学部
機械工学科
三原雄司 教授

学生が自ら設計制作する
フォーミュラカーで走行能力
を競う「フォーミュラSAE
活動」の研究アドバイザー。
そのノウハウを生かした授
業は、学生からも大人気。全
日本学生フォーミュラ大会
では日本自動車工業会会長
賞を受賞した。



工学部
建築学科
手塚貴晴 助教授

新潟県松之山自然科学館の
設計で多くの賞を取るなど、国内
外の数多くのコンペで実績
をあげる新進の建築設計家。
グッドデザイン賞や日本
建築学会作品選奨など、数
多くを受賞。日本の住宅建
築における新たな設計と研
究の第一人者でもある。



工学部
機械システム工学科
D.N.ネンチエフ 教授

人間の腕と同じ構造を持つ
「マニピュレータ」の開発で、
他を圧倒するロボット研究者。
そのロボット腕は、宇宙開発
に利用されている。最先端の
研究成果を盛り込んだ授業
では、日本語と英語を併用し、
学生の国際化も積極的に促
している。



工学部
都市工学科
長岡裕 教授

上下水道の高度な水処理技
術の開発や、都市河川の水質、
自然環境改善などに取り組
み、その成果を社会に生か
す水環境分野のプロフェッ
ショナル。関係する学会や官公
庁の委員会でも八面六臂の
大活躍。分かりやすい授業は
学生からも大好評である。



工学部
生体医工学科
石島正之 教授

普段の生活を送りながら
ごく自然に各種健康検査が
できる「無意識検査法」の
視念と技術を世界に先駆け
て開発。電子、情報医学に
またがる新しい学問分野を
探求し、人類が健康で豊せ
に暮らすための研究開発と
教育に邁進している。

渋谷コロキウム、2006年6月13日、エクセル東急





キャンパス整備（体育館食堂棟、新図書館につづく）

「新建築学科棟」オープン!

地上4階建ての新建築学科棟には、研究室、実験室などのほか、1階に実践的な教育の場となる製図室やプレゼンテーションコーナーが設置されます。



© Iwasaki STUDIO

建築学科卒業生、岩崎教授研究室

老朽化した2号館(建築学科棟)









足場の除去

環境情報学部設置10年目

1997年度 1期生入学

工学部

機械システム工学科

電子情報工学科（現コンピュータメディア工学科）

エネルギー基礎工学科（現環境エネルギー工学科）

第10回横浜祭(環境情報学部)、2006年6月3, 4日





THE UNIVERSITY OF
MICHIGAN
ANN ARBOR
MICHIGAN

2015
CORPORATE
PROCESSES

2015
CORPORATE
PROCESSES

21-28 MAY 2011
ANN ARBOR
MICHIGAN
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030

21-28 MAY 2011
ANN ARBOR
MICHIGAN
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030

楷の木会(環境情報学部同窓会)発足

2006年6月3日







武蔵工業会定期総会懇親会

6月10日(土)、渋谷エクセル東急
楷の木会の紹介













博士、学位授与式

インドネシア留学生(中央)

ナンチェフ教授(初めての欧米系教授、左3人目)